

春分峠物語

春分峠。なんて すてきな名前だろう。
そのいわれは 昭和43年3月20日の春分の日
国有林の木材搬出の林道として 松原〜窪川線が
開通したことを記念して命名されている。
久保谷山〜松葉川山が二つがる山岳重畳の中で
林道開通以前から 集落を結ぶ往還道があり
人々のあしあとに刻まれた様々な物語がある。
長い歴史の中で古ぼけた黒い土の上には
人々の営みの息づかいのような残り香すら
漂っているようにも感じられる。

険しい山に囲まれた津野山郷は
集落の入口に茶堂が建てられ 遠く
から来る旅人や商人は 物資や情報
を運んで来る福の神として送り迎え
する風習があり、異文化の交流も行
なわれていた。また三方を囲み
建築様式は外來者を接待する
一方で 動行と監視する役割も
果たしていたといわれる。
中央には弘法大師が
祀られている。

松原
ふれあい
野不場跡
安良川
の「お暗渠」

お大師様
八十八ヶ所
とさき
橋原川
2015
1.1
島中

宮の峠
安芸の人が刻んだ
地蔵様で 往還の
正面を向けていて
刻んだ人も しょう
いつのまにか 東の方
方向がかわっていた。
また、ハギの木で
刻まれており 昔に
ご利用があり 治癒
ハギの木の葉を二度と
使わなかったと伝わる。

久保谷
丸太流して
運材していた
昔の炭が
花に組まれ
下へ運ばれた。

森林セラピーロード
100年ほど昔に開設された
水路にのって歩くことができる

女の人「夜の山道を一か
越える時には 洗ひ髪に
桐を口にくわえた姿とな
身を守ったという。
松葉川を越えて
又夕撃ちをして
熊に化け物か
と聞いたとされ
危うく撃たれること
提灯を見せると
信じてもらえて助か
という話も伝わる。

久保谷川
成川
主谷
久保谷山原生林の
伐採は止まる。
人が入る前は 神秘的な森の
姿であり 大木の姿が目につく。
林床は 大木の葉に覆われ
土を踏むことがなかったという。
今もこの森が 残っているのは
この一帯は 世界遺産となつた
かもしれない。

開通当時は 苗木を
谷底まで 見える 切り立
った断崖で 足元が
スリと切れおちて
いるようだった。

S53.5.17(水)雨
PM7:00すぎ 岩国
出動した自衛隊機が
墜落する大事故があった。
松原では大音響が
ひびきわたった。

昭和時代までは いたる
ところ 狸にばかされた
という話が 伝えている。
テレビラジオが 普及する
までは 人も 狸や狐と
交信できる能力があつた
からではないだろうか。
人が 自然界と 濃密に
かかわっていた
古き良き時代だと思ふ。

久保谷川
成川
主谷
久保谷山原生林の
伐採は止まる。
人が入る前は 神秘的な森の
姿であり 大木の姿が目につく。
林床は 大木の葉に覆われ
土を踏むことがなかったという。
今もこの森が 残っているのは
この一帯は 世界遺産となつた
かもしれない。

開通当時は 苗木を
谷底まで 見える 切り立
った断崖で 足元が
スリと切れおちて
いるようだった。

S53.5.17(水)雨
PM7:00すぎ 岩国
出動した自衛隊機が
墜落する大事故があった。
松原では大音響が
ひびきわたった。

昭和時代までは いたる
ところ 狸にばかされた
という話が 伝えている。
テレビラジオが 普及する
までは 人も 狸や狐と
交信できる能力があつた
からではないだろうか。
人が 自然界と 濃密に
かかわっていた
古き良き時代だと思ふ。

久保谷川
成川
主谷
久保谷山原生林の
伐採は止まる。
人が入る前は 神秘的な森の
姿であり 大木の姿が目につく。
林床は 大木の葉に覆われ
土を踏むことがなかったという。
今もこの森が 残っているのは
この一帯は 世界遺産となつた
かもしれない。

開通当時は 苗木を
谷底まで 見える 切り立
った断崖で 足元が
スリと切れおちて
いるようだった。

S53.5.17(水)雨
PM7:00すぎ 岩国
出動した自衛隊機が
墜落する大事故があった。
松原では大音響が
ひびきわたった。

昭和時代までは いたる
ところ 狸にばかされた
という話が 伝えている。
テレビラジオが 普及する
までは 人も 狸や狐と
交信できる能力があつた
からではないだろうか。
人が 自然界と 濃密に
かかわっていた
古き良き時代だと思ふ。

久保谷川
成川
主谷
久保谷山原生林の
伐採は止まる。
人が入る前は 神秘的な森の
姿であり 大木の姿が目につく。
林床は 大木の葉に覆われ
土を踏むことがなかったという。
今もこの森が 残っているのは
この一帯は 世界遺産となつた
かもしれない。

開通当時は 苗木を
谷底まで 見える 切り立
った断崖で 足元が
スリと切れおちて
いるようだった。

S53.5.17(水)雨
PM7:00すぎ 岩国
出動した自衛隊機が
墜落する大事故があった。
松原では大音響が
ひびきわたった。

昭和時代までは いたる
ところ 狸にばかされた
という話が 伝えている。
テレビラジオが 普及する
までは 人も 狸や狐と
交信できる能力があつた
からではないだろうか。
人が 自然界と 濃密に
かかわっていた
古き良き時代だと思ふ。

久保谷川
成川
主谷
久保谷山原生林の
伐採は止まる。
人が入る前は 神秘的な森の
姿であり 大木の姿が目につく。
林床は 大木の葉に覆われ
土を踏むことがなかったという。
今もこの森が 残っているのは
この一帯は 世界遺産となつた
かもしれない。

開通当時は 苗木を
谷底まで 見える 切り立
った断崖で 足元が
スリと切れおちて
いるようだった。

S53.5.17(水)雨
PM7:00すぎ 岩国
出動した自衛隊機が
墜落する大事故があった。
松原では大音響が
ひびきわたった。

昭和時代までは いたる
ところ 狸にばかされた
という話が 伝えている。
テレビラジオが 普及する
までは 人も 狸や狐と
交信できる能力があつた
からではないだろうか。
人が 自然界と 濃密に
かかわっていた
古き良き時代だと思ふ。

久保谷川
成川
主谷
久保谷山原生林の
伐採は止まる。
人が入る前は 神秘的な森の
姿であり 大木の姿が目につく。
林床は 大木の葉に覆われ
土を踏むことがなかったという。
今もこの森が 残っているのは
この一帯は 世界遺産となつた
かもしれない。

開通当時は 苗木を
谷底まで 見える 切り立
った断崖で 足元が
スリと切れおちて
いるようだった。

S53.5.17(水)雨
PM7:00すぎ 岩国
出動した自衛隊機が
墜落する大事故があった。
松原では大音響が
ひびきわたった。

昭和時代までは いたる
ところ 狸にばかされた
という話が 伝えている。
テレビラジオが 普及する
までは 人も 狸や狐と
交信できる能力があつた
からではないだろうか。
人が 自然界と 濃密に
かかわっていた
古き良き時代だと思ふ。

久保谷川
成川
主谷
久保谷山原生林の
伐採は止まる。
人が入る前は 神秘的な森の
姿であり 大木の姿が目につく。
林床は 大木の葉に覆われ
土を踏むことがなかったという。
今もこの森が 残っているのは
この一帯は 世界遺産となつた
かもしれない。

開通当時は 苗木を
谷底まで 見える 切り立
った断崖で 足元が
スリと切れおちて
いるようだった。

S53.5.17(水)雨
PM7:00すぎ 岩国
出動した自衛隊機が
墜落する大事故があった。
松原では大音響が
ひびきわたった。

昭和時代までは いたる
ところ 狸にばかされた
という話が 伝えている。
テレビラジオが 普及する
までは 人も 狸や狐と
交信できる能力があつた
からではないだろうか。
人が 自然界と 濃密に
かかわっていた
古き良き時代だと思ふ。

久保谷川
成川
主谷
久保谷山原生林の
伐採は止まる。
人が入る前は 神秘的な森の
姿であり 大木の姿が目につく。
林床は 大木の葉に覆われ
土を踏むことがなかったという。
今もこの森が 残っているのは
この一帯は 世界遺産となつた
かもしれない。

開通当時は 苗木を
谷底まで 見える 切り立
った断崖で 足元が
スリと切れおちて
いるようだった。

S53.5.17(水)雨
PM7:00すぎ 岩国
出動した自衛隊機が
墜落する大事故があった。
松原では大音響が
ひびきわたった。

昭和時代までは いたる
ところ 狸にばかされた
という話が 伝えている。
テレビラジオが 普及する
までは 人も 狸や狐と
交信できる能力があつた
からではないだろうか。
人が 自然界と 濃密に
かかわっていた
古き良き時代だと思ふ。

赤日 白日

赤日(あかひ)
赤らんでうまれた日には
山越えが禁じられていた。
出産のあつた家に 湯を
山越えのあつたつづら
もこのころ。
白日(しろひ)
人が死んだ日の山越えは
さしあたりは ながいといふ。

山の民は ヤナギを担いで
海まで 帰りに 塩を 買つて
この山道を行き来して
いた。

水ヶ峠
水ヶ峠と雲が
重なり 雷雨になる

五郎池
中筋堰
主谷
昔山仕事
おこした人が
罰として 植込
とされた

風格のある
アガツの森
森のコロが
漂う。

春分峠
峠をわたる風は 時には
ぞよ風となり 暑さや
雨のしめ 時には 烈風と
なり 激しく 原生の木々
をうならせる。

久保谷風景林
清々たる常緑樹の葉に
朝の光がさす光景に
出会う時 神々しい
何かを 享受するやうな
気持ちになる

松葉川より古道をのぼり
つめ 杖立三角点につく
ほとい 杖を 立てかけた
気持ち 爽快感が する。

林業は 重力に 逆らひながら
歩く 速度が ほかと ちがう。

さかのぼる数百年間、この過酷な峠道をワラジとはき、杖を
ついて往来して来た人々の 忍耐や 苦難に 思いをはせる。
そして 林道が開通して 砂利道・急カーブ・一車線ながら
くらしの中に 根づいた 生活道となっている。
開通から半世紀あまり、時の流れは 生活も 風景も 変えてゆく。
峠は 平地からみれば 大なる 障害ではあるが 人々の生活
そのものであり、この道を通る文化や 物資、情報、木炭があり
生き活きた 下へ 上へ 現代に 受け継がれた 道である。

又夕撃ち
その昔、イシシが
夜間に 又夕撃ち
にやってくるのを
待ちふせて
仕止める 狩猟
方法があった

樹林に覆われた
古い道を歩く時
遠い昔に 引き戻す
ような 風が 吹く

息をきり
淡々と 高度を
あげていく
気持ちがいい
山道とは
ニホンズカミ

藩の役人が 津野山郷
に 井田郷の 視察
人々が 生活物資を 運搬
して、行商の人が 通る
山人が 通る 生活道、往還道である。

城ヶ森の大杉
1869年 植栽
大杉
森の 内風景林
高知管轄
石井修治
が 植
山 神

6号谷
5号谷
森林軌道跡に 林道開設
ミタキ
広大な人工林

春分峠一帯の国有林は
藩政時代には お留山と
して 入山、伐採は 禁じられ
樹齢数百年の ヒノキ、マツ
モミ、ツガ、ケヤキなどの 優良
天然林として 世に 知られ
ていた。
しかし、戦後 導入により
永く 固地といわれた 山は
また 間に 皆伐された。
そのあと、管轄署や 元の
人たちが 汗を流して スギや
ヒノキを 植えて、広大な
美林となっている。
今後、宝の山となつて 後世
に 伝へられていくことだろう。

女家伽(よめとぎ)の風習
昔は まだ 幼い 娘が お嫁さんと
なると 一緒に 行く時、幼い 娘の
女家伽が 同行して、しばらく 一緒
生活をする ことと して、お嫁さんが
さびしく ならないように 伝えたとい
う「女家伽(よめとぎ)」という
風習があった。
90年~80年 昔、久保谷から
じょうの だばへ 嫁いだ 女家伽に
ついてきて、しばらく 一緒に
女家伽と したという 話を 今でも
那須近衛さんより 伝へ聞く。